

San-iku 通信

社会福祉法人賛育会の広報誌「さんいくつうしん」

TAKE FREE



清風園
にこにこ
農園

REPORT

Vol. **33**
2022 AUTUMN

賛育会病院の新たな取り組み
母子支援室開設から、1年を迎えました。

賛育会町田事業所 地域活動

清風園「こども食堂 にこにこ清風食堂」・第二清風園「鶴川やってみる会」



社会福祉法人
賛育会



特集
REPORT

賛育会病院の新たな取り組み 母子支援室開設から、1年を迎えました。

産前・産後ケアから小児レスパイト入院、母子や子育て支援など、母子支援室は困ったことはなんでも相談できる、お母さんとお子さんのための「母子の総合窓口」です。

賛育会病院はキリスト教の「隣人愛」の精神の理念のもと、104年前「婦人と小児の保護・保健・救護」を目的に創立されました。その精神は妊産婦・乳幼児を取りまく環境が大きく変化する中であっても、私たちに変わる事無く受け継がれています。

当院には小さく生まれた赤ちゃんや、病気を持った赤ちゃんが入院できる専門病棟(NICU/GCU)があり、入院した赤ちゃんたちは必要な治療を終え卒業していきます。一方で、そのケアに携ってきた助産師や看護師たちは、退院した赤ちゃんが自宅に帰って元気に過ごしているのか、短い入院期間を終えたお母さんたちは育児や母乳に悩んでいるか、そんな問題や悩みを抱えた赤ちゃんやお母さんたちに、自宅に帰った後も継続的に支援していく方法はないかと考えてきました。このような想いから2021年に母子支援室を立ち上げました。

母子支援室では、産前産後ケア・外来における母乳ケア・子育て支援・小児レスパイト入院(在宅で医療的ケア児を育てる保護者が様々な事情で療育が困難になった時の一時的な入院)や在宅支援を行なっています。行政・福祉などの地域と連携して包括的に母子にケアを提供していきます。

昨年度の小児レスパイト患者はひと月に5名程度でし

たが、現在は15名程度になり、新規の利用希望者も増加しています。レスパイト入院の利用後には「自宅での表情がよくなりました」「話も聞いてくれて、自分のことまで心配してくれて安心して預けられます」などの声をいただいています。産後ケアでは、当院で出産された方が退院期間を延長し延泊という形で体を休めながら、育児技術を習得して自宅に帰られています。他施設で出産された母子の産後ケアの利用も増えました。

またNICU/GCUを卒業する赤ちゃんたちが、母子支援室を利用し、長時間面会や宿泊をしながら自宅に帰る準備ができたことで、退院後の保護者の不安が軽減しました。また児に関しては管轄の児童相談所や保健所と連携したケースも多く、児の保護に努めてきました。

開設から日も浅く、地域の母子の皆様のご要望にお応えできていない現状もあります。しかし一人ひとりのケースを大切に、経験と学習を重ね、さらに多くの母子の悩みに応えられるように努力していきます。母子支援室は「母子の総合窓口」として地域の方々に寄り添います。これからも母子が安心して生活できるようにお手伝いさせていただきます。

(賛育会病院 副看護部長 福田 えりか)



賛育会
町田
事業所

地域
活動

地域の皆様とともに、 活動の輪を広げています！

清風園「こども食堂 にごこ清風食堂」



2015年の年末、当時の施設長が地域の民生委員さんから「地域で困っている人は高齢者だけではない。“ここにいていいんだよ”というような、安心できる居場所がない子どもたちに何かしてあげられないか？」というお話をいただいたことをきっかけに、町田市で最初のこども食堂プロジェクト『にごこ清風食堂』は始動しました。2020年3月、新型コロナウイルス感染拡大の影響で活動休止に。その後どうにか活動を再開できないかと検討し、感染対策を重視して7月に再開しましたが、再びコロナ感染拡大となり休止へ。2021年3月、近隣の中学校のスクールボードの方にもご協力いただき、地域にお住いの方全てを対象とした『にごこ清風ワゴン(お弁当販売)』として生まれ変わり、現在は75食をわずか13分で完売するほどになっています。同時にフードドライブ*も開始し拡がりを見せています。

皆様のご支援をいただきながらの本プロジェクトですが、現在では個人のご家庭から農家の方や企業へと拡がり、多くの方々の協力を得て活動を続けています。

*フードドライブ:家庭で使いきれない未使用食品を持ち寄り、フードバンク団体などに寄贈する活動

第二清風園「鶴川やってみる会」



『鶴川やってみる会』は2017年3月から取り組み始めた地域貢献活動です。子育て世代が中心の近隣住民の方と第二清風園職員がメンバーとなり、地域住民が第二清風園や地域包括支援センターを理解し気軽に足を運べるようになること、施設を行き来し活用することで施設全体・近隣地域が活性化することを期待して始めました。多世代交流を目的とした「あったらいいな」「楽しいな」「助かるな」と思える活動を企画・実施しています。

今年の夏も恒例の早朝ラジオ体操を開催。朝6時半、子どもから高齢者まで地域の方が第二清風園の駐車場に集まり、検温や消毒を済ませ、間隔をあけてラジオ体操が始まります。最初は眠そうだった子どもたちも、ラジオ体操第2が終わるころには今から遊びに行けそうなくらいに。スタンプカードを貯めて最終日のお土産を楽しんでいる子供たち。大人も子どもたちからパワーをもらって、すがすがしい1日が始まります。今年で4回目のラジオ体操は「地域のラジオ体操が遠くて通うのが大変」、「長期休みでも子どもの生活リズムを崩したくない」という、会のメンバーの意見から始まり地域に浸透してきました。今年からは近隣自治会との共催となり、役員さんたちも参加してくれました。これからもいろいろな企画が続いていきます。



施設長紹介

新施設長のご紹介

第二清風園施設長 石田 悟
(東京都町田市)

4月より第二清風園施設長に就任しました石田です。第二清風園勤務後、東海事業所、賛育会病院を経て10年ぶりに戻ってきました。町田市は年々高齢化が進み、2035年には全国平均を超える見込みです。そのような中で、町田市の中心に位置する第二清風園の働きは今後ますます重要になると考えています。施設長という大役に戸惑いながらも職員一丸となって、利用者の皆様が安心して過ごせる地域に根差した施設づくりを行っていきたくと考えています。



マイホーム新川施設長 北川達三
(東京都中央区)

5月1日付でマイホーム新川施設長として着任しました北川達三です。17年ぶりに中央区の施設に戻ってきました。当時のボランティア、利用者の家族と再会して、嬉しくもあり、賛育会が中央区で築いてきた信頼に応えるべき重責を感じています。区の高齢化率14.7%、公園は子どもたちの元気な声にあふれ、活気ある地域です。その地域との関りを大切に、利用者一人ひとりに寄り添い、安心して過ごせるマイホーム新川にしたいと思います。



賛育会チャリティーコンサートのお知らせ

1918年キリスト教の「隣人愛」の精神に基づいて創立された賛育会は、多くの皆様にお支えをいただきながら104年を迎えました。賛育会病院では、地域の方々が安心してお産と子育てができるよう周産期・小児医療・母子支援を中心とした総合的な医療を担う地域病院として、命の尊さ、命における平等と互いに支えあう気持ちで「ともに生きる」医療を実践してきました。

私たちが今後も永く地域の皆さまに寄り添い続けることができるよう、現在老朽化している賛育会病院の建て替えを計画しています。2008年から始まった、賛育会病院建て替えのためのチャリティーコンサートは、新型コロナウイルス感染症の蔓延により2020年、2021年と2年にわたり中止を余儀なくされましたが、今年3年ぶりに開催し、地域の皆さまに美しい音楽に触れていただくひとときを持つこととしました。秋の夜、一流の演奏家が奏でる音色を聴きにぜひご来場ください。

● 賛育会チャリティーコンサート2022～ともに生きる音楽会～

日時：2022年10月19日（水）18時開場/19時開演
 場所：すみだトリフォニーホール 大ホール（錦糸町駅前）
 出演：大谷 康子（ヴァイオリン）、湊 恵子（オルガン）、
 松本 和将（ピアノ）



コンサート、無料託児サービス詳細はWEB
 をご覧ください

賛育会後援会 チャリティーコンサート
 QRコードをスキャンまたは賛育会後援会で検索！



■ お問い合わせ先：賛育会後援会事務局窓口
 TEL：03-3622-7614 / FAX：03-3829-2302
 mail：concert@san-ikukai.or.jp

ウクライナ避難民支援レポート

現在、1,600名を超える方々がウクライナから日本へ避難されています。賛育会は横浜YMCAからの派遣要請で、5月から現在に至るまで2名の職員を派遣し活動支援を行っています。横浜市を通し「生活に係る費用の支給の窓口」として、書類審査やニーズの聞き取り、市との情報共有、被支援者の情報管理などを行っています。活動の中で初めて接したウクライナの人々は、謹み深く知的でした。深く傷付いていることを滅多に口にせず、日本人にとっての大地震のように「いつかくるとは思っていた。」と侵攻を受け止め苦悶のなかでも前を向き未来を探す姿は、深い共感と支援したい思いを引き出されるものでした。ロシア語は彼らの生活語であり「ウクライナ語は堅苦しくて英語を話すくらい疲れる」と聞いた時には、戦争がいかにナショナリズムを深めるものであるかと言葉を失いました。



今回の活動を通し、介護ケアにおける根拠を示す重要性を改めて学ばせていただいた感があります。
 （東京清風園 茂木まき子）

賛育会特別募金のお願い

賛育会の各施設では「いのちの授業」や「こども食堂」をはじめ、高齢者や子どもの居場所づくり、被災地支援など60を超える地域活動を行っています。

これらの活動は多くの皆様からのご寄付によって支えられています。

災害や感染症の影響下での病院や施設の運営は、大きな困難に直面しています。活動や交流が制限される状況でも、人々とつながることを願い、あらゆる手段を用いて、賛育会は人と地域に寄り添い続けます。皆様の温かいご支援をお願いいたします。

- 募金は現金、または郵便振替でお願いいたします。
- お申し出により、募金者のお名前や募金額を非公開にすることも可能です。



San-iku 通信

社会福祉法人賛育会の広報誌「さんいくつうしん」
 San-iku通信 Vol.33 2022年 秋号
 編集：賛育会法人事務局
 発行人：中村 基信
 発行所：社会福祉法人 賛育会
 印刷：（有）エースプリント（20220915-7050）

社会福祉法人 賛育会
 〒130-0012 東京都墨田区太平3-17-8
 URL <https://www.san-ikukai.or.jp/>
 お問い合わせ
 TEL：03-3622-7614

